

## ◆CTM にて肥大化した SQL DB のテーブルを削除(truncate)する方法について

### ●概要

CTM では各端末の接続履歴などを残しておりますが、これを定期的に削除しない場合、DB を圧迫してしまい CTM の表示（情報が更新されない）や、操作に影響を与えてしまう（エラー発生や甚大な時間を要する）可能性があります。

このように DB が肥大化した場合、CTM 側からのログ情報削除の操作にも影響が発生する可能性があるため、ここでは直接 SQL Server Management Studio を利用して削除(truncate)する方法を記します。

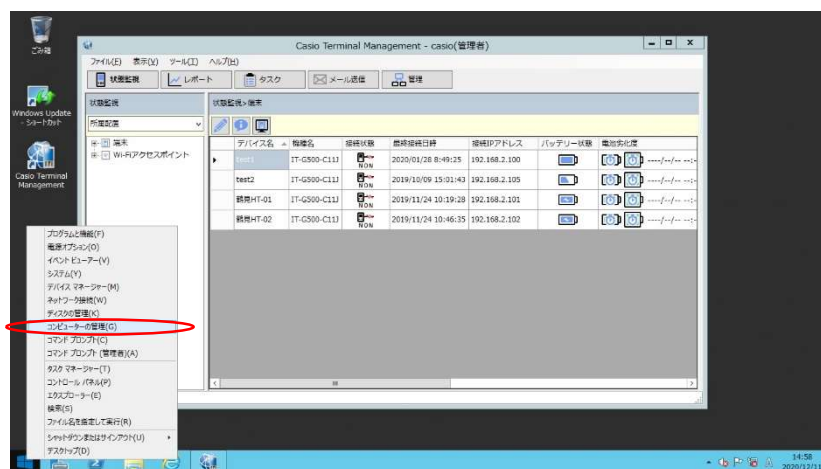
### ●肥大化した DB（テーブル）の削除手順

操作の流れとしましては以下となります。

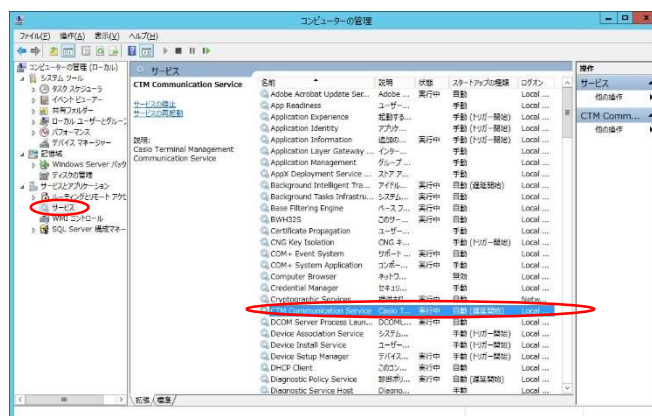
- ① CTM を終了させます。（サービスの停止）
- ② Microsoft SQL Server Management Studio を使用し、現在の DB 情報をバックアップしておきます。
- ③ 削除対象のテーブルを削除するクエリを作成し実行します。
- ④ CTM を再起動（PC を再起動）します。

#### ① CTM のサービスを停止します。

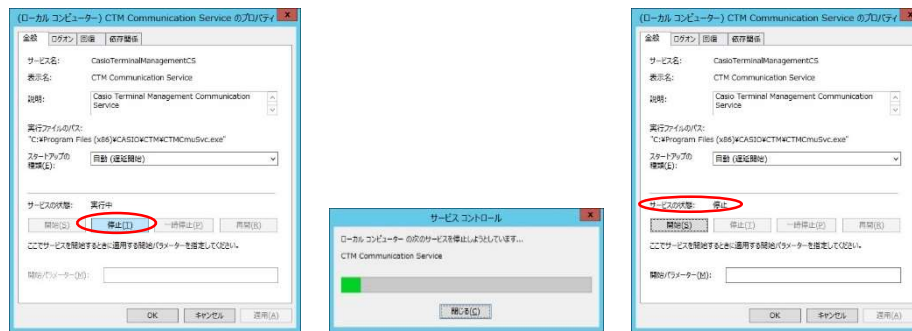
1) スタートの右クリックメニューから“コンピュータの管理”を選択します。



2) “コンピュータの管理”で“サービス”を選択し、“CTM Communication Service”を選択します。

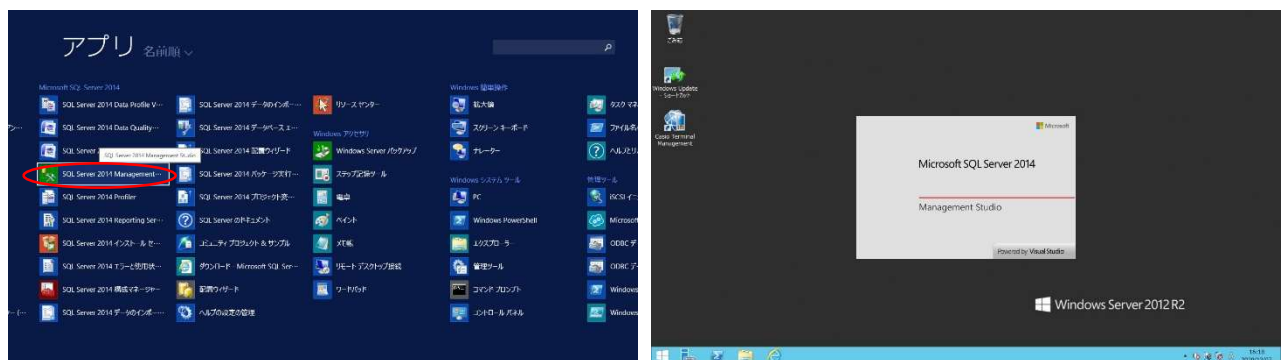


- 3) “CTM Communication Service” のプロパティにて “サービスの状態” で “停止” をクリックします。  
(停止中の表示がされ停止状態になります。)

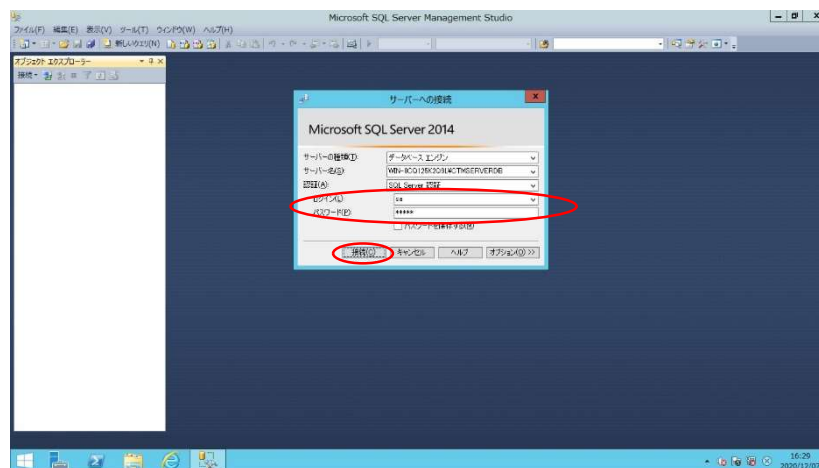


- ② Microsoft SQL Server Management Studio を起動し、DB のバックアップを行います。

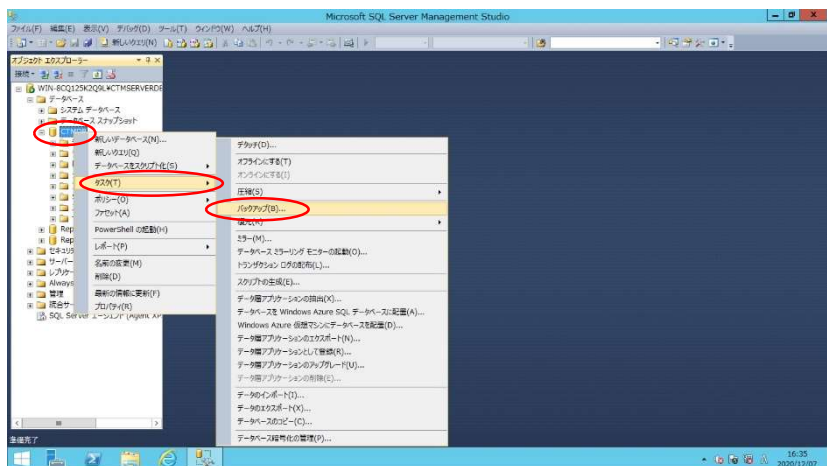
- 1) OS のアプリ一覧から “SQL Server 2014 Management Studio” を選択し起動します。



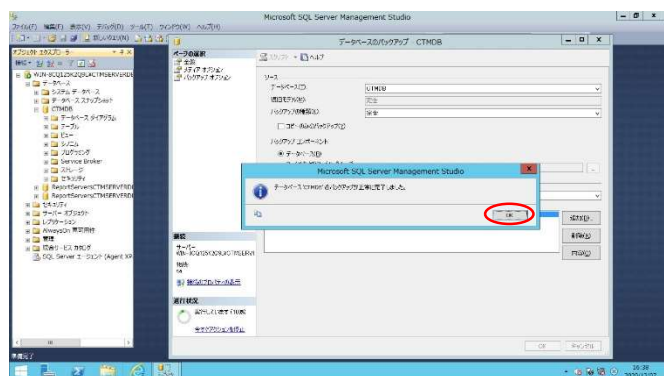
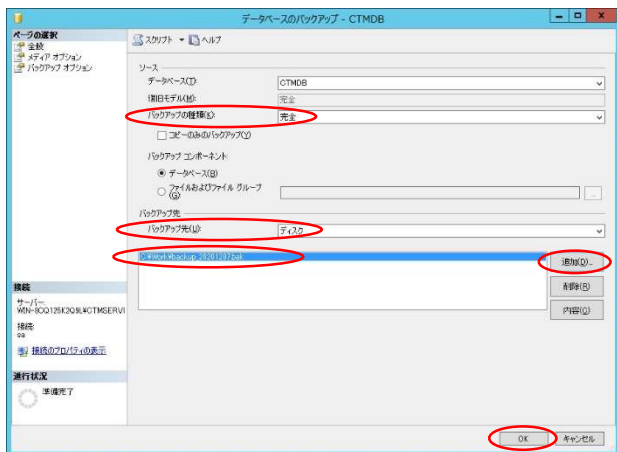
- 2) “サーバーへの接続” 画面にて “ログインパスワード” に “sa” を、“パスワード” に CTM インストール時に設定したものを入力し “接続” をクリックしてください。



- 3) 画面左の“オブジェクトエクスプローラー”から“CTMDB”を選択し、右クリックメニューから、“タスク” – “バックアップ”を選択します。

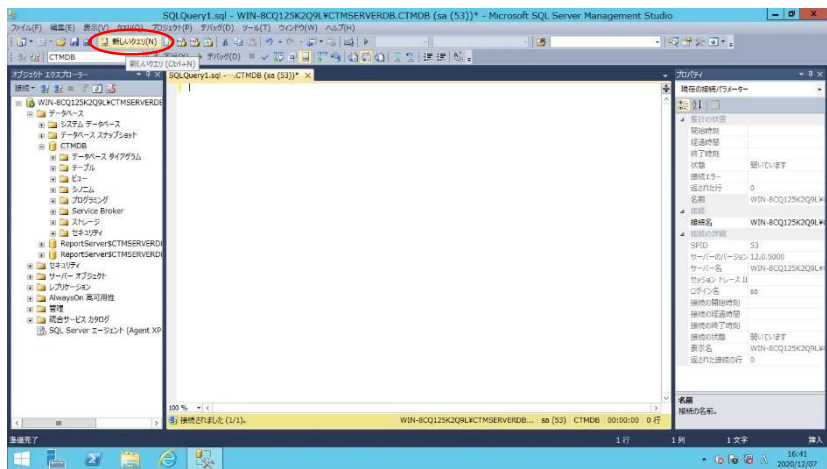


- 4) “バックアップ”にて、“バックアップの種類”を“完全”、“バックアップ先”に任意の箇所を“追加”で設定し、“OK”をクリックしてバックアップを実行します。(正常終了後“OK”で完了します。)



### ③ 削除対象のテーブルを削除するクエリを作成し実行します。

- 1) “新しいクエリ”をクリックし、ここにテーブルを削除するコマンドを記述します。



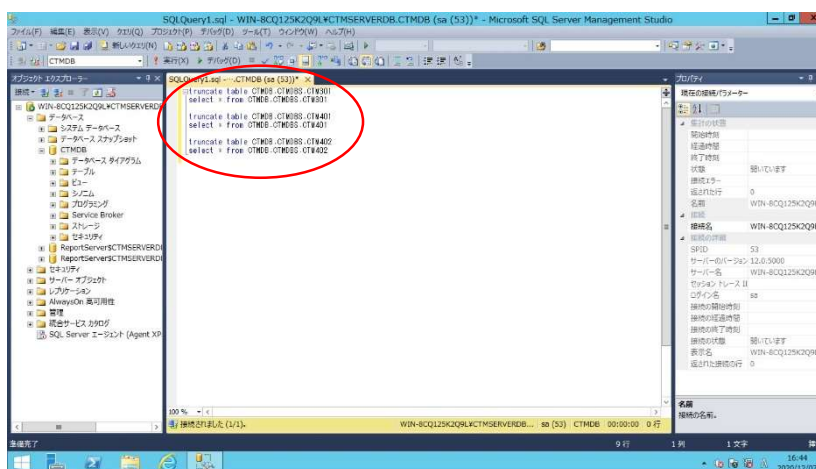
2) 削除のためのコマンド以下のように記述してください。

```
truncate table CTMDB. CTMDBS. CTM301  
select * from CTMDB. CTMDBS. CTM301
```

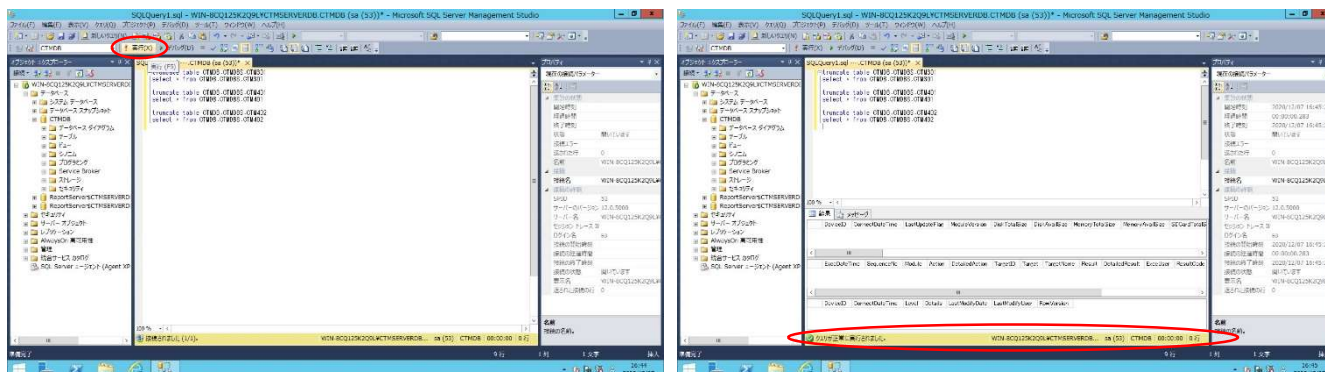
```
truncate table CTMDB. CTMDBS. CTM302  
select * from CTMDB. CTMDBS. CTM302
```

```
truncate table CTMDB. CTMDBS. CTM401  
select * from CTMDB. CTMDBS. CTM401
```

```
truncate table CTMDB. CTMDBS. CTM402  
select * from CTMDB. CTMDBS. CTM402
```



3) “！実行”をクリックして削除を実行します。完了すると右の画面のようなメッセージが表示されます。



### 3-1) データベースファイルサイズの圧縮の実行

“新しいクエリ”をクリックして新たにクエリー画面を開き以下の命令を記述し「実行」をクリックします。

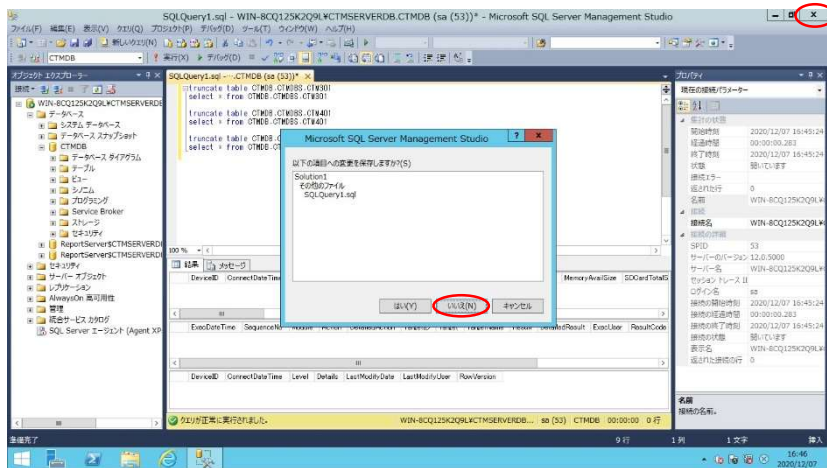
```
DBCC SHRINKDATABASE (CTMDB, 10);
```

### 3-2) インデックスの再構成の実行

「ファイル」⇒「開く」⇒「ファイル」で、下記のファイルを読み込み「実行」をクリックします。

```
ctmdb_indexreorganize.sql
```

4) “SQL Server 2014 Management Studio”を終了します。(メッセージが表示されますが保存は不要です。)

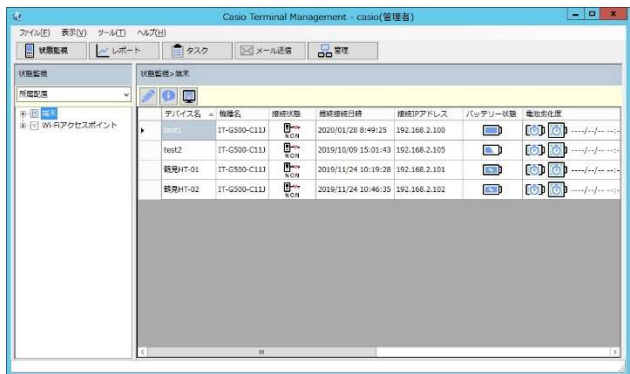


④ PC を再起動することで、CTM も再起動されます。

CTM を実行すると、監視状態が何も表示されない状態となりますが、これは DB のテーブルの内容を削除したため過去の情報が消えたためであり、この後、端末との通信が開始されれば、また一覧の表示は更新されますので、問題はありません。

#### <実行前>

応答の端末からの応答情報が更新されず“接続状態”も“NON”表示



#### <実行直後>

テーブル削除により、過去情報が消えたため一時的に情報が表示されていない状態になります。  
通信が開始されれば正常に状態表示状態に戻ります。

